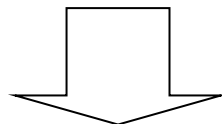


事例Eさんの全体像（受講者用）

【ステップⅠ】 Eさんはどのように生活をしてきた人 “Eさんはどのような人” 過去から現在まで

Eさんは77歳の男性、生来まじめで温厚な人柄である。郷里を離れて大手企業に就職し、結婚して25歳で長男が生まれ、サラリーマンとしてまじめに仕事をしてきた。45歳頃に開発された住宅街に2階建ての家を建てている。

定年後も再就職して事務関係の仕事を65歳まで続けてきたので、退職後に唯一の趣味として通っていた碁会所の友人は多いが、近隣の人とは挨拶をする程度である。市内に親戚もなく、郷里の親戚づきあいも疎遠であったが、特に大きな問題もなく比較的健康的に過ごしてきた。長男家族は遠方なので、碁に興じながら妻と2人で平穏に暮らしていた。このまま夫婦2人の平穏な生活が続けられると思っていた。



脳 梗 塞

【ステップⅡ】 Eさんと家族の現在の状況は？ “Eさんはどのような状態でどのように生活しているのか” (生活の全体像)

《健康状態・医療、治療の状況》

《身体の状況》《日常生活の様子》

左上下肢麻痺が残り、入院治療後リハビリテーションを受け、一ヵ月後には退院を控えている。両下肢筋力低下、左肩、肘関節拘縮あり。不安定ながら一本杖歩行が出来るまでに回復した。食事摂取には支障がないものの、更衣、入浴などには一部介助が必要である。見守りがあれば日常生活は可能な状況であるが退院後の生活に対して不安がある。義歯のあたりがあり痛くて噛みにくい。

高血圧症の内服治療中である。降圧剤と抗血栓剤を服用している。

《精神的状況・コミュニケーション》

退院を目前にして、ベッド上でボーッとしていることが多く、「なかなか根気が続かない」「囲碁ができるかどうか分からない」と弱音をはくことが多い。難聴であるがなんとかコミュニケーションはとれる。現在は家に帰ることが唯一の希望である。

《社会活動・社会交流の状況》

市内に親戚はいない。郷里の親戚とも疎遠、近隣とも挨拶する程度の付き合いであることから介護、生活を支える背景が弱い。碁会所の友人は多い。その碁会所に再び行けるかどうか不安に思っている。

《住環境・とりまく地域の様子などその他》

家の周囲は坂が多く、買い物も不便である。
Eさんの障害にあわせての住環境が整っていない（段差、布団で寝起き、トイレ・浴室に手摺り無し）地域との交流も少ない。厚生年金で経済的には比較的安定している。

●Eさんの状況のまとめ

Eさんは、今、突然の脳梗塞の発症により左上下肢麻痺の後遺症が残り、健康の喪失により気持ちが弱くなり、意欲低下の傾向にある状態です。

そのために、退院を楽しみにしているものの、従来の生活が再び送れるだろうかという不安、さらに退院後に腰痛や両膝関節痛がある妻に負担がかかるのではないかと不安な気持ちでいます。

●家族の状況のまとめ

【妻】：76歳

妻は自宅で夫を介護したいと思っていますが、高齢に加えて難聴、腰痛、膝関節痛があり買物、外出はシルバーカーを使用しています。膝関節症は近隣の整形外科に通院し理学療法を受けています。今まで介護体験がないことで十分な介護知識がないこと、高齢者二人世帯であることから、今後の介護に対して体力的にも精神的にも不安に思っています。

【その他】長男：52歳

長男夫婦は遠方で日常的な介護の協力が得られないが入退院の手続き等を担ってくれています。今までは親戚とも疎遠、近隣とも挨拶程度の付き合いであることから毎日の介護、生活を支える背景が弱い状況です。

【ステップⅢ】 Eさんが望んでいるこれからの生活は？

【Eさん】：「退院して二人で自宅で暮らしたい。妻の体調が改善して欲しい。
いつかは基会所へ通えるようになりたい」

【妻】：「体調を改善して、以前のように夫と自宅で暮らしたい」

【ステップⅣ】 そのためにEさんと家族に今、必要なことはなんだろう

- ・ 病院から在宅生活へのスムーズな移行（外泊等の試み）
- ・ 義歯、歯科治療（栄養状態への影響）
- ・ Eさんの能力を活かした住環境の整備・生活環境・介護環境の検討
- ・ Eさんの血圧管理・再発予防を含めた健康管理
- ・ 排泄、入浴、移動動作安定のための身体機能の維持向上
- ・ Eさんの能力を活かした日常生活（トイレ・入浴・移動等）への助言
- ・ 外出しやすい環境づくり
- ・ 妻の在宅介護の支援・相談助言
- ・ 緊急時の対応
- ・ Eさんの社会交流の場づくり、生きがいの再建（再び囲碁が楽しめるように！）



Eさんと妻の在宅生活に対する不安に対する継続的支援
(介護サービスの提供・介護情報の提供・精神的支援)